

サンスター

『G・U・M』からオーラルヘルス発想の新シリーズ

サンスターグループ(以下、サンスター)は3月18日、オーラルケアで歯周病菌とたたかう「G・U・M(ガム)」ブランドから、オーラルヘルス発想でお口と身体の健康を考える「ガム・ウェルプラス」シリーズを発売した。

歯周病は、プラーク(歯菌成分やハミガキの殺菌剤)中の歯周病菌がハゲキに炎症を起こし、周りの組織が破壊されていく。そこで、サンスターでは、歯周病菌がハゲキを抜く理由の3分の1を占め、成人の約7割が罹患している。歯周病の原因である歯周病菌は従来、歯周プラークに存在するとされてきたが、近年の研究でプラークだけでなくハゲキ細胞の中にも侵入し、潜伏していることが明らかとなっている。

ハゲキ細胞に潜む歯周病菌は、唾液中の殺菌成分やハミガキの殺菌剤などから逃れ、歯周病を開発し、ガム・ウェルプラスシリーズのデンタルペースト(医薬部外品、ハーブミント・リフレッシュクール、125g各450円)と、デンタルリンス(同、スッキリ爽やかタイプ・低刺激ノンアルコールタイプ、450mL850円、900mL1250円)に採用した。



さらに、同シリーズのデンタルペーストとデンタルリンスには、歯周病菌の潜伏先である歯のかたまりの分散を助ける「分散成分」を新たに配合。「菌のかたまり分散」と「ブロック殺菌」のWアプローチにより、効果的に歯周病菌を殺菌し、歯周病を防ぐという。ガム・ウェルプラスシリーズではこのほか、粘性のある歯周プラークをザラザラ毛先と極細毛先でしっかりとらえてかき出し、奥歯が磨きやすいロングネックと歯科医が推奨するエンピツ持ちに適合した多面ハンドル設計しており、これらの理念を具現化する第1弾の商品としてガム・ウェルプラスを発売した。今年でガムブランドは誕生から30年を迎え、今では世界90カ国で販売している。グローバルのブランド売

上高は680億円にのぼる。今回発売するガム・ウェルプラスシリーズを通じて、多くの方に『オーラルケアからオーラルヘルスへ』というメッセージをお伝えしていきたい」と抱負を述べた。プロモーションでは、俳優の阿部寛を起用した新CMを3月19日から全国で放映している。G・U・M研究員に扮する阿部さんが様々な研究資料が映し出されるオーラルヘルスラボにて、歯周病菌がハゲキ細胞に侵入することを紹介するシーンから始まる新CMでは、歯周病菌をブロックして殺菌するガム・ウェルプラスの歯周病予防メカニズムをアニメーションでわかりやすく紹介している。

ボラの人事戦略部はこのほど、「モチベーションチームアワード2020」を受賞した。リンクアンドモチベーションが提供する従業員エンゲージメント調査にて「エンゲージメントスコア」(企業と個人の相互理解・相思相愛度合いを偏差値化したもの)が大きく上昇し、組織状態に改善がみられたことから選出された。

受賞にあたっては、従業員意識調査の結果の向上や残業時間の削減、市場からの評価の向上などが総合的に評価された。具体的には、自組織の課題抽出や、組織ビジョンを自分ごと化するためのディスカッション、ワーキンググループ結成という3点に取り組み、「自身が社会に対してどんな価値を提供したいか」という問いをもとに自身の価値を、人団体への情報収集を行うなど、組織内にとどまらず様々なアクションを実施した。

その結果、従業員エンゲージメントスコアが23・93(前回)から4・00(今回)に向上した。また、残業時間についても2018年の14時間59分(月平均/1人当たり)から2019年には8時間15分(月平均/1人当たり)と前年比44・8%の削減に成功している。

「モチベーションチームアワード2020」を受賞

「シニア世代の活躍支援企画」「社内つながり創出」という4つのテーマについてグループで企画を実行した。また、取り組みを通して社会や市場に目を向けることを常に意識し、外部との共創イベントや、他社や法

ボラ

大日本印刷

紙を使用したラミネートチューブを開発 紙の風合いと保形性を生かしながら プラスチック使用量を削減

大日本印刷(DNP)は、紙を使用した環境配慮型のラミネートチューブ「DNPラミネートチューブ 紙仕様」を開発した。チューブの胴体部分に紙を使用することで、プラスチック使用量を15%削減できるとい

近年、ラミネートチューブは、国内、海外ともプラスチックの削減や地球温暖化の防止などが社会課題となっている。こうした中、プラスチック・トイレタリーメカ



「などから紙化のニーズが高まっている。DNPは、「持続可能な原料調達」「CO2の削減」「資源の循環」という3つの方針に基づき、循環型社会の実現・環境負荷の低減につなげる環境配慮パッケージシリーズ「GREENP

ACKAGING」を展開しており、今回、再生CO2排出量の削減を目指し、紙比率を向上させし、プラスチック使用量を削減したラミネートチューブを新たに開発した。開発した紙仕様は、紙のもつ温かみやナチュラル感を活かした外観での差別化や、紙がもつ保形性により、最後まで内容物を絞り出しやすいという使用性の向上も可能で、さらに紙の使用とあわせて、バイオマスポリエチレンを使用することにより、全体のうち約75%を植物由来材料で代替することができ

今後は、ラミネートチューブのみならず、プラスチック使用量の削減、CO2排出量の削減を目指す、紙比率を向上させた環境配慮製品の開発を進めていく。